

2026年5月18日

浜松市議会議員 殿

送着者 NPO 法人縄文未来 KALA プロジェクト事務局 鈴木信行

陳情



PCB 処理施設周辺環境に関する調査 要望書
陳情

【要旨】

NPO 法人縄文未来では、防潮堤に総延長約 3200 メートルのハイキングコース整備を計画し、植樹活動を継続してきました。

しかし、防潮堤中央部約 1700 メートルのうち、約 560 メートル区間の広葉樹についてのみ、植樹から 9 年が経過した現在も、植樹当初の樹高 40～50 センチ程度からほとんど成長が見られない状況が続いています。一方、それ以外の区域では同種の樹木が 3～4 メートル以上に成長しています。

この生育差について疑問を抱き、今年 1 月 6 日、市環境部産廃対策課の中里課長ら 4 人と打ち合わせを行いました。その後、1 月 14 日には、近隣にある PCB 処理施設との関連性について懸念を持ち、産廃対策課へメールで相談しました。

また、「微量 PCB」と「低濃度 PCB」の違いや、施設の認可内容について問い合わせを行いましたが、複数回にわたり明確な回答は得られていません。

微量 PCB は 0.5mg/kg 以下、低濃度 PCB は 5g/kg 以下とされており、数値上は大きな差があります。大洋サービスの「微量 PCB」認可当時、防潮堤南側部分はまだ工事未着工でした。一方、市側からは低濃度 PCB 認可について明確な説明がなされていません。

さらに、環境保全課の「大気汚染相談窓口」にもメールで相談しましたが、回答はありませんでした。

4 月 14 日には鴨江別館を訪れ、中里課長、佐藤課長らと面談しましたが、「大洋サービスは国の基準を守っており問題ない」との説明に終始し、土壌調査など具体的な原因究明に向けた対応には至りませんでした。

私たちは、その後も現地観察や簡易的な検証を継続しています。

冬場の強風時における風向きと樹木の生育不良区域に一定の傾向が見られること、また、現地の土を用いた栽培実験では、一部植物に枯死や生育不良が確認されるなど、何らかの環境要因が存在する可能性を懸念しています。

現在までに健康被害などは確認されていません。しかし、周辺には農地も存在しており、地域住民の不安解消のためにも、客観的な調査と情報公開が必要であると考えます。

私たちは、特定の事業者を非難することを目的としていたわけではありません。長年植樹活動を続ける中で確認された異変について、専門的かつ客観的な調査を行い、地域住民が安心できる環境を将来に残したいと願っています。

篠原地域の農業や自然環境、そして子どもたちの未来を守るためにも、行政による誠実な調査と対応をお願い申し上げます。

【要望事項】

- 1 防潮堤植樹区域における土壌調査および環境調査を実施すること。
- 2 調査については第三者機関を含めた客観的検証体制を構築すること。
- 3 PCB 処理施設周辺における大気・土壌への影響について、市民に対する説明責任を果たすこと。
- 4 強風時における施設稼働と周辺環境との関係について、必要な検証を行うこと。
- 5 地域農業や住環境への影響を未然に防ぐため、継続的な監視・観測体制を整備すること。